

4. 地域科学部

(1) 地域科学部の教育目的と特徴	4-2
(2) 「教育の水準」の分析	4-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	4-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	4-12
【参考】データ分析集 指標一覧	4-16

（１）地域科学部の教育目的と特徴

1. 概要

本学部は、人文科学、社会科学及び自然科学の諸専門領域の基盤的研究を維持強化しつつ学際的に協同させることにより、地域概念の多様性を学術文化的に広く探究している。専門的知見と併せて、人間や社会に対する深い洞察力と的確な判断力を備え、より良い地域社会の構築を目指す教育研究を推進している。

2. 教育目的

本学部は、本学のいずれの学部にもない文理融合型学部としての特色を生かし、自然環境の中の社会、それとの調和のとれた文化、生活、行政、産業、福祉のあり方を探求する。そして、現代社会における複合的問題を的確に把握して、その解決を展望できる人材を育成することを教育の基本目標とする。

文系分野を主とする学生は理系の知識を、理系分野を主とする学生は文系の知識を持ち、社会で活躍できるよう教育する。さらに、複数の外国語教育を重視し、これによってともすれば英語圏にのみ限定されがちな視野を、広く世界のさまざまな地域に向ける教育も行う。本学部は、人間性の豊かな、そして国際的視野と専門性を合わせ持って行動することができる人材を育成する。

- a. 国際的視野に立って地域の個別的課題を創造的に解決できる能力を高める。
- b. さらに、そこから普遍的方向性を導き出し、それを世界へ発信できるようにする。
- c. 専門性とヒューマニズムをあわせもった人間性豊かな行動する市民を養成する。
- d. 環境と人間生活の関係についての洞察から、持続可能な循環型社会づくりに貢献できる人材を育成する。
- e. 多様な価値観と異なった文化を理解して、現代社会において共存と交流を図りうる素養を身につけさせる。
- f. 自治行政の推進、地場産業の振興、市民生活の中核を担えるプランナーを育てる。
- g. NPO 活動・市民的コミュニケーションを基盤とするまちづくりを推進する市民層と連携して教育にあたる。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 4204-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 （再掲） 4204-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料
（別添資料 4204-i3-1）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料
（別添資料 4204-i3-2）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部は、第3期中期目標期間中の2016年度より国際教養コースを設置した（2020年度より「国際教養プログラム」へ変更予定）。これはこれまで本学部が実施してきた総合的な視野と幅広い知識の修得のための文理横断的・学際的な地域科学教育に加えて、より一層グローバルな視野を持った学生を育成するための取組であり、国際教養コースは、2019年度時点で最高学年の4年生まで学年進行しており、2020年3月に最初の卒業生を輩出した。

国際教養コースでは、原則として2年生後学期から3年生前学期の1年間に

岐阜大学地域科学部 教育活動の状況

わたる海外留学が必修である。国際教養コースにかかる取組を推進するために、「言語と社会入門」、「応用英語 A」等、各種の留学準備用科目、留学希望の学生達が自由に使用可能な語学演習室の設置、学生への貸出が可能な自習用語学教材の配置などを行ってきた。

本学部が行ってきた国際教養コースに関する教育活動の結果、派遣実績表（表 1-3-1）が示すように、2019 年度までに 32 名（内 11 名は 2020 年度まで留学予定）の国際教養コース学生が、1 年間にわたる長期の海外留学（オーストラリア、カナダ、フランス、ドイツ、韓国、アメリカ合衆国）を体験できた。

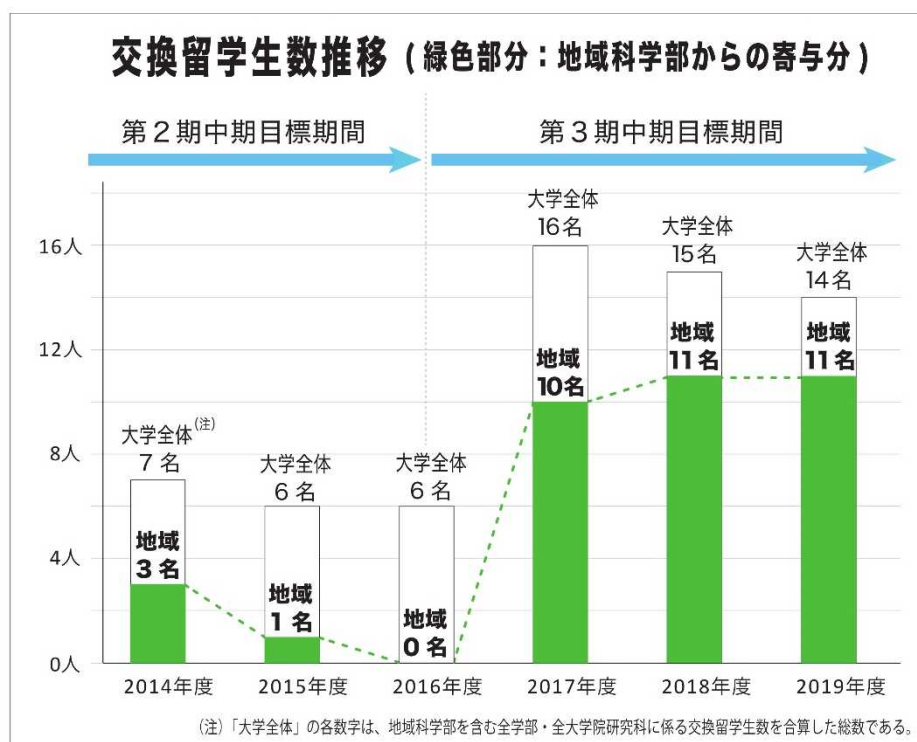
表 1-3-1 地域科学部学生を海外協定大学へ長期交換留学生として派遣した実績表

年度	留学人数	留学人数の内訳と留学先
2017 年度	10 名	(1 名 オーストラリア グリフィス大)
		(6 名 オーストラリア シドニー工科大)
		(2 名 アメリカ合衆国 アーカンソー大フォートスミス校)
		(1 名 アメリカ合衆国 ノーザンケンタッキー大)
2018 年度	11 名	(2 名 オーストラリア シドニー工科大)
		(2 名 カナダ レイクヘッド大)
		(1 名 フランス リール第 3 大)
		(1 名 ドイツ エルフルト大)
		(1 名 アメリカ合衆国 アーカンソー大フォートスミス校)
		(1 名 アメリカ合衆国 ノーザンケンタッキー大)
		(1 名 アメリカ合衆国 サンディエゴ州立大)
		(1 名 アメリカ合衆国 ユタ州立大)
		(1 名 アメリカ合衆国 ウェストバージニア大)
2019 年度	11 名	(2 名 オーストラリア シドニー工科大)
		(2 名 フランス リール大)
		(1 名 ドイツ エルフルト大)
		(1 名 韓国 高麗大)
		(1 名 アメリカ合衆国 アーカンソー大フォートスミス校)
		(4 名 アメリカ合衆国 ノーザンケンタッキー大)

国際教養コースの取組による海外派遣開始前には、毎年 6～7 名程度までに留まっていた岐阜大学全体の海外への長期留学学生数が、国際教養コースの取組開始以降は、2017 年度（岐阜大学全体で 16 名（内 地域科学部学生 10 名））、2018 年度（岐阜大学全体で 15 名（内 地域科学部学生 11 名））、2019 年度（岐

阜大学全体で14名（内 地域科学部学生11名））と急激に増加した。下記交換留学生数推移のグラフは、地域科学部の国際教養コースの取組開始が、岐阜大学全体に劇的な変化をもたらした事実を如実に示している。

図 1-3-2 交換留学生数推移



本学部は国際教養コース設置を通じて、岐阜大学全体の海外への長期留学学生数の70%～80%程度を輩出する成果を上げ、その結果として岐阜大学全体の海外への長期留学学生数を2倍以上増加させた。

国際教養コースでの海外留学は、留学先の海外の大学で1年間に亘って各種専門の授業を受講して単位を取得するものであり、第3期中期目標期間中において本学の日本人学生の国際化に大きく寄与する特徴的な取組のひとつである。[3.1]

<必須記載項目 4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料
(別添資料 4204-i4-1)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料

岐阜大学地域科学部 教育活動の状況

(別添資料 4204-i4-2～4204-i4-5)

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数

(別添資料 4204-i4-6)

- ・ インターンシップの家庭実施状況が確認できる資料

(別添資料 4204-i4-7)

- ・ 指標番号 5、9～10（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部の授業形態は、講義・セミナー・実習に大別される。まず講義については、本学部教員の専門領域の多様性を生かすため、人文・社会・自然の各科学の多彩な科目を設けている。セミナーについては1年生前期の初年次セミナー、同後期と2年生前期の基礎セミナー、2年生後期から4年生後期までの専門セミナーと、4年間を通じて少人数教育を行っている。最後に実習であるが、1年生全員必修の「社会活動演習」と3年生全員必修の「地域学実習」を実施している。

[4.1]

- 学習指導法については、通常の講義による指導のほか、1年生全員必修の「地域研究入門」や各専門セミナーなどではアクティブ・ラーニングを実施している。

[4.1]

<必須記載項目5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 4204-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 4204-i5-2）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 4204-i5-3）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 4204-i5-4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 障がいのある学生に対する支援は、全学の障害学生支援室（サポートルーム）及び保健管理センターと連携して実施している。また本学部の学生を SA として雇用し、2019年度まで在籍していた身体に障がいのあるの学生に対し、2016年度

から 2019 年度までの 4 年間で、延べ 42 名の学生が SA を務め、介助等の支援を行った。当該学生からは「いつもサポートしてくれて本当に助かった」とのコメントが寄せられた。 [5.1]

- 障がいのある学生の災害時の避難方法を考慮し、災害時避難用具(エアー・ストレッチャー)を配置するとともに、当該学生自身が参加した用具取り扱い研修を学生(SA 学生を含む)及び教員向けに開催した(2018 年)。なお、この研修の参加者は学生 5 名・教員 5 名・職員 5 名であった。 [5.0]

<必須記載項目 6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準(別添資料 4204-i6-1~4204-i6-2(第 5 条))
- ・ 成績評価の分布表(別添資料 4204-i6-3【非公表】~4204-i6-4【非公表】)
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料(別添資料 4204-i6-5~4204-i6-7)

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部の理念、目標、カリキュラム・ポリシーに沿ってシラバスを整備し、試験・レポート等の成績評価方法・基準の明示化、達成度に応じた評価を実施している。さらに、教員による全学生の単位取得状況ならびに成績のチェックと指導教員による学修指導を行い、単位取得状況等に問題がある学生ならびに全学生の GPA を担当教員に伝え、学修指導を実施している。 [6.1]

<必須記載項目 7 卒業(修了)判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定(別添資料 4204-i7-1(第 2 条、第 12 条)~4204-i7-2)
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業(修了)判定の手順が確認できる資料
(別添資料 4204-i7-3(第 60、61 条)~4204-i7-4(第 5 条))

岐阜大学地域科学部 教育活動の状況

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部では「岐阜大学地域科学部規程」第12条1項で「本学部を卒業できる者は、別表第4に規定する所定の単位を修得した者とする」とし、次の表のように定めている。 [7.1]

表 1-7-1 卒業に必要な修得単位数

教養科目	専門基礎科目	専門科目	合計
30 単位	23 単位	62 単位	129 単位
自由選択科目 14 単位			

- 全員必修の専門科目として卒業研究（卒業論文）を課しており、その詳細に関しては「岐阜大学地域科学部学位論文及び審査要項（別添資料 4204-i7-5）」で定めている。卒業（修了）判定については、論文の指導教員の主査1名と副査1名が審査を行い、その合否を決定する。 [7.1]

<必須記載項目8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 4204-i8-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 4204-i8-2）
- ・ 指標番号1～3、6～7（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2017年度入試（2016年度実施）より、推薦入学Ⅰ特別入試の出願要件に特別支援学校高等部卒業見込み者を加え、従来よりも多様な入学者を受け入れる体制を整えた（別添資料 4204-i8-3）。 [8.1]

<選択記載項目A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
（別添資料（再掲） 4204-i4-6）
- ・ 指標番号3、5（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 本学部のこれまでの取組を踏まえ、地域が求めるグローバル人材の資質や能力にもとづいた教育改革を検討し、2016年4月に「国際教養コース」を設置した。同コースは日本人学生と外国人留学生とが学び合える混在教育型プログラムとし、日本人学生には1年生から英語を使った教育を実施して2年生後学期から3年生前学期までの留学を課し、留学生には日本文化の教育を行うことを特徴としている。

2016年度からコースを実際に設置し、留学前の必修科目として、1年生前期の「言語と社会入門」（海外大学への留学経験のある教員による留学の概要と語学力向上が主目的）「グローバリゼーション概論」（海外留学の基礎知識として不可欠なグローバル化の現状の理解が主目的）、1年生後期の「言語と社会 A（英語2クラス、仏語・独語・中国語各1クラス）」及び2年生前期の「言語と社会 B（クラス数はAと同じ）」（いずれも語学力向上が主目的）を新たに開講した。また、語学力向上を目的とした学生の自習施設として「語学演習室」を新たに設置した。国際教養コースの学生達の留学開始年度である2017年度をむかえると留学者数が大幅に増加し、さらに年度を経るにしたがって、留学先が英語圏から、ヨーロッパ圏、そして、そしてアジア圏へと拡大してきている（表1-A-1）。[A.1]

表1-A-1 地域科学部における日本人学生の留学先の国名および留学者数

年度	2016	2017	2018	2019
留学者数	0	10	11	11
留学国 ※（ ）内は 留学者数		オーストラリア (7) アメリカ (3)	アメリカ (5) カナダ (2) オーストラリア (2) フランス (1) ドイツ (1)	アメリカ (5) オーストラリア (2) フランス (2) ドイツ (1) 韓国 (1)

※国際教養コースの学生は、原則として2年生後期から1年間留学するため、学年進行初年度の2016年には該当者がおらず、学年進行2年目の2017年度は国際教養コース以外の学生2名（国際教養コースが設置される前の制度の学生）の留学も含んでいる。

<選択記載項目B 地域連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部では1年生の社会活動演習、3年生の地域学実習を必修としている。社会活動演習は、8名の教員で担当し、事前学習の上で歴史博物館、NPO、福祉施設、コミュニティ FM 等での見学や体験を行って報告書を作成している。地域学実習は、インターンシップへの参加や岐阜市を中心に議会、図書館、国際交流、福祉施設、まちなみ景観、森林における事前学習、調査、地域活動への参加を行い、これらの成果をまとめた共同報告書も20年間作成を続けている。一部の科目は社会調査士の資格認定科目としており（統計学、調査法とともに）、東海地区社会調査インターカレッジ発表会（東海社会学会）でも報告の機会を設けている。この他の個別の授業科目でも、フィールドワークや地域調査のレポート（地域づくり論、地域経済論など）の機会が多くあり、専門セミナーでの指導を受けて、テーマ、対象地域による卒業論文が作成される。こうした学習と地域での交流を体験した学生は、調査、分析、企画能力を身に付けるので、卒業後も民間企業や自治体、NPOなどの職場において高い能力を発揮しており、企業・行政からの評価も高い（別添資料 4204-iB-1）。[B.1]

<選択記載項目C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部では、2019年度に「岐阜大学地域科学部及び地域科学研究科の教育の内部質保証に関する要項（別添資料 4204-iC-1）」ならびに「岐阜大学地域科学部及び地域科学研究科の教育の内部質保証に係る実施内規（別添資料 4204-iC-2）」を定めることにより、教育の内部質保証体制を新たに構築した。その概要は、要項の第2条で学部長・研究科長を教育の内部質保証の責任者と定め、また第4条で「本学部等の教育の内部質保証体制の中核となり、それに係る自己点検・評価（外部評価等を含む）の実施及びその結果を踏まえた対応措置を統括するための組織として地域科学部内部質保証委員会を置く」とし、この内部質保証委員会が、他の関係委員会と連携しながら、教育の質の保証・向上に努めている。[C.0]

＜選択記載項目D 学際的教育の推進＞

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部では、第3期中期目標期間以前より、1年生前期に全員必修である「地域研究入門」を開講し、本学部専任教員の専門分野の多様性を生かした学際的教育の推進を図っている（別添資料 4204-iD-1）。具体的には、2019年度の同講義では、地理学・英米文学・環境心理学・哲学・民法・行政法・教育学・生物学・行政学・文化人類学といった幅広い分野の教員が講師となり、【まちを歩く／まちを読む】・【文化と価値観を考える】・【共生の実践】の3つのテーマごとに、講師による講義とパネルトークを行った。さらに、2017年度からは、講義のまとめとして、特定のテーマを設定してグループ分けをした上で、教員と学生がともに問題点や解決策などについて自由に議論を行うワークショップを実施するとともに、各グループが検討結果をプレゼンする新たな試みを実施している。[D.0]

＜選択記載項目E リカレント教育の推進＞

【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（別添資料 4204-iE-1）
- ・ 指標番号2、4（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 4204-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料（再掲） 4204-ii1-1）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

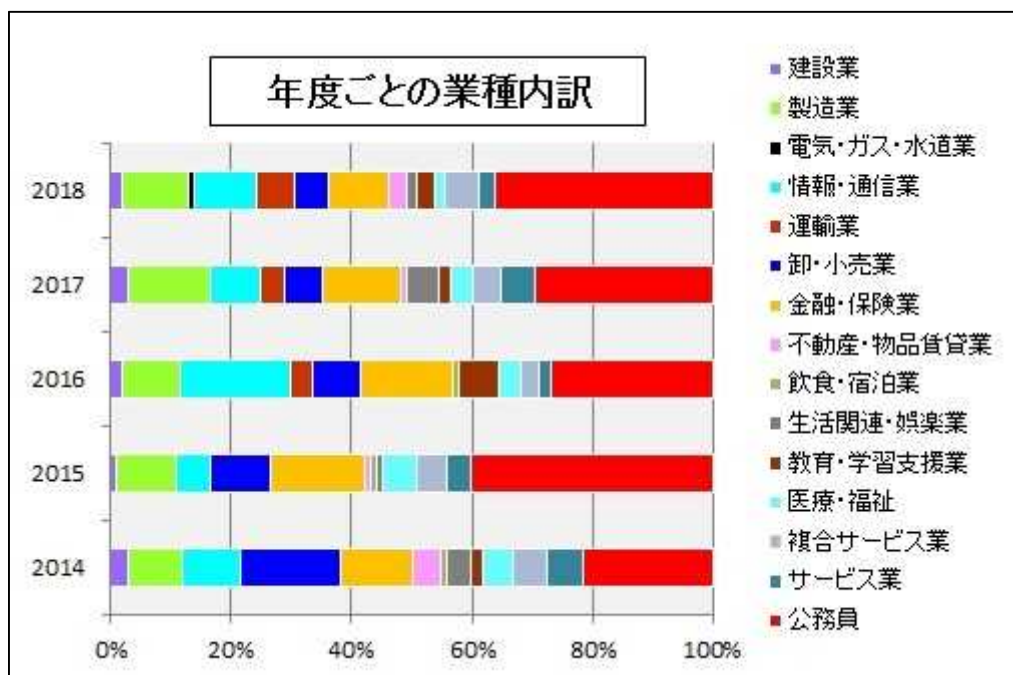
- 学部及び卒業生の活躍が対外的に認知されるに伴い、就職率はさらに高まってきている（表 2-2-1）。進路は、大学院進学と就職に大別され、前者は希望と実績ともに一桁であり、ほとんどの学生は就職する。就職を希望した者のうち、実際に就職した者の割合はいずれの年も 95%を超え、5年間の平均で 97%と良好である。学生は民間企業から公務員まで、幅広い業種に就職し、活躍している（図 2-2-2）。〔2.1〕

表 2-2-1 就職者数（人）と就職率の推移

卒業年度	就職希望者数	就職者数	就職率
2015	106	102	96%
2016	110	104	95%
2017	111	108	97%
2018	109	108	99%
2019	119	116	97%
過去5年間の平均	111	108	97%

※就職率：就職者数/就職希望者数

図 2-2-2 年度ごとの業種内訳



<選択記載項目 A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
(別添資料 4204-iiA-1～4204-iiA-5)

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

<選択記載項目 B 卒業（修了）生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 4204-iiB-1）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

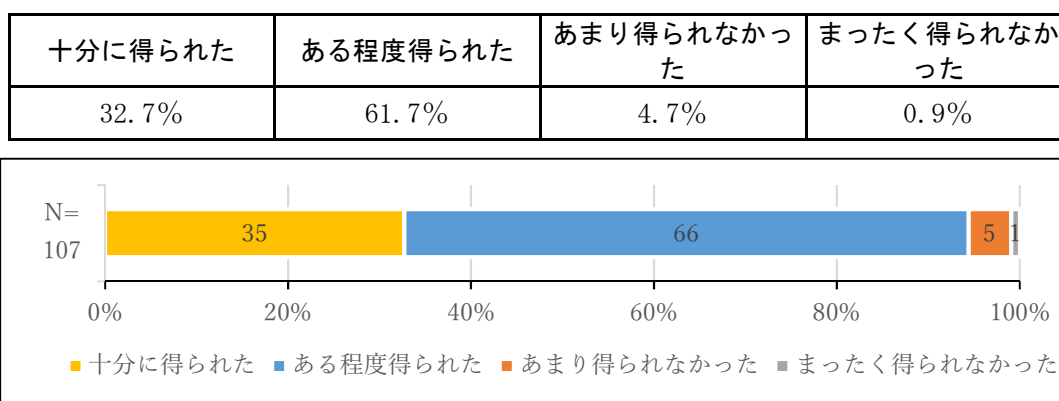
- 本学部は、2018 年度、認証評価基準に即して、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていることを確認するために、卒業後一定期間の就業経験等を経た卒業生に対し、郵便またはメールによる意見聴取（学部同窓生アン

岐阜大学地域科学部 教育成果の状況

ケート調査)を行った(別添資料(再掲)4204-iiB-1)。調査時点において卒業後5年以上経過する者を中心とする卒業生(325名)を調査対象とし、回収率は32.9%(107名回答)であった。

学部同窓生における教育目的に則した学習成果の達成度についての回答は、「十分に得られた」(32.7%)、「ある程度得られた」(61.7%)であり、その合計は94.4%であった(表2-B-1)。このことから、本学部の教育目的に則した学習成果の達成度はとても高く、本学部の教育目的に則した学習成果の達成がなされていることが確認できた。[B.1]

表2-B-1 学部同窓生アンケート調査の集計結果



※「卒業(修了)後一定期間の就業経験等を経た卒業(修了)生からの意見聴取の実施報告書」より

<選択記載項目C 就職先等からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料(別添資料4204-iiC-1)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部では教員が定期的に本学部卒業生・修了生の就職先に足を運び、企業側の満足度についての訪問調査を行っている(訪問した企業:39社、アンケートのみ回答した企業:16社)。2016年度に行った訪問調査における企業側の評価では、特に「マナー・モラル(規律性)」、「責任感・誠実さ(やる気や熱意)」に関して評価されている(表2-C-1)。また要改善項目がほとんどない点も特徴である。さらに、訪問調査時には企業側から、産学交流の機会や学生の就職を望む声がある。[C.1]

岐阜大学地域科学部 教育成果の状況

表 2-C-1 地域科学部・地域科学研究科の卒業生・修了生に対する評価

	高い	普通	要改善
明るさ・元気（協調性）	59.6%	40.4%	0.0%
マナー・モラル（規律性）	78.7%	21.3%	0.0%
行動力（実行力）・積極性（主体性）	51.1%	48.9%	0.0%
コミュニケーション能力 （発信力と傾聴力）	55.3%	42.6%	2.1%
プレゼンテーション能力 （計画性、課題発見力、想像力）	48.9%	51.1%	0.0%
責任感・誠実さ（やる気や熱意）	83.0%	17.0%	0.0%
忍耐力	57.4%	42.6%	0.0%

※「平成 28 年度企業訪問報告書」より

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍 状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数 (常勤・常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業 データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路 データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 一部の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。